

平成 28 年度橋本市教育委員会第 3 回 E S D 連続セミナー概要報告

奈良教育大学 中澤静男

- ◇開催日時 9 月 30 日(金) 18 時～20 時
- ◇会場 橋本市教育文化センター
- ◇参加者 辻本 (橋本市教委)、大谷・糸賀 (城山小)、深・堂本・南・上田・阪本 (三石小)、木村 (紀見小)、谷垣・堀口・中澤 (奈良教育大学) 12 名
- ◇内容 E S D の理論研修②

前時の振り返り

◇E S D で育てたいノウリョク

- ①批判的思考力 (クリティカル・シンキング)
- ②多面的・総合的思考力 (システムズ・シンキング)
- ③コミュニケーション力
- ④長期的思考力・行動力地球的諸課題



1. E S D で育てる能力と全国学力・学習状況調査について

結論：E S D に取り組むことで、全国学力・学習状況調査の結果は向上する。

江東区立八名川小学校 (平成 22 年～28 年)

国語 A 問題で 6.12%、B 問題で 15.17% の上昇

算数 A 問題で 5.68%、B 問題で 18.22% の上昇

(1) B 問題 (活用) が上昇する理由

全国学力・学習状況調査 「活用」の力を問う B 問題は PISA 型学力を意識して作成 (ベネッセ)

◇P I S A 型学力とは

O E C D (経済協力開発機構) が実施する P I S A 調査 (生徒の学習到達度調査)

P I S A 型学力：授業で習ったことそのものではなく、その知識を使って実生活に活用できる力

読解リテラシー：自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力

数学的リテラシー：数学が世界で果たす役割を見つけ、理解し、現在及び将来の個人の生活、職業生活、友人や家族や親族との社会生活、建設的で関心を持った思慮深い市民としての生活において確実な数学的根拠に基づき判断を行い、数学に携わる能力

科学的リテラシー：自然界および人間の活動によって起こる自然界の変化について理解し、意思決定するために、科学的知識を使用し、課題を明確にし、証拠に基づく結論を導き出す能力

問題解決能力：解決の方法が直ぐには分からない問題状況を理解し、問題解決のために、認知的プロセスに関わろうとする個人の能力であり、そこには建設的で思慮深い市民として、個人の可能性を実現するために、自ら進んで問題状況に関わろうとする意志も含まれる。

(2) O E C D のキー・コンピテンシーと P I S A 型学力

O E C D のキー・コンピテンシー：国際標準の学力

(A) 相互作用的に道具を用いる

- ①言語、シンボル、テキストを相互作用的に用いる ← 読解リテラシー・数学的リテラシー
- ②知識や情報を相互作用的に用いる ← 科学的リテラシー
- ③技術を相互作用的に用いる

(B) 異質な集団で交流する

- ①他人とのいい関係を作る
- ②協力する、チームで働く
- ③争いを処理し、解決する

(C) 自律的に活動する

- ①大きな展望の中で活動する
- ②人生設計や個人的プロジェクトを設計し実行する
- ③自らの権利、利害、限界やニーズを表明する

(3) ESDで育てたい能力は

- ①批判的思考力 (クリティカル・シンキング)
- ②多面的・総合的思考力 (システムズ・シンキング)
- ③コミュニケーション力
- ④長期的思考力・行動力地球的諸課題



PISA型学力
読解リテラシー、数学的リテラシー、科学的リテラシー

問題解決能力はESDのALにおいて養われる

2. ESDで育てたい価値観について

(1) 国立教育政策研究所

- ⑤他者と協力する態度
- ⑥つながりを尊重する態度
- ⑦進んで参加する態度

(2) 日本ユネスコ国内委員会

- ①持続可能な開発に関する価値観
(①人間の尊重、②多様性の尊重、③非排他性、④機会均等、⑤環境の尊重等)
- ⑥リーダーシップの向上

(3) 生きる力

- ①他人を思いやる心、②感動する心

◇国研は持続可能な社会づくりの構成概念として

実態概念：多様性、相互性、有限性

規範概念：公平性、連携性、責任性を挙げています。

この規範概念と(1)の⑤他者と協力する態度、⑥つながりを尊重する態度、⑦進んで参加する態度、また、(2)の①人間の尊重、②多様性の尊重、③非排他性、④機会均等、⑤環境の尊重等、(3)の①他人を思いやる心、②感動する心の関連性を考えましょう。

	国研	国内委員会	生きる力
公平性		①・②・③・④	
連携性	⑤・⑥	②	①・②
責任性	⑦	⑤・⑥	

ということで、E S Dで育てたい価値観（態度）は

- ・公平性 人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、
- ・連携性 他者と協力する態度、つながりを尊重する態度、他人を思いやる心、感動する心
- ・責任性 進んで参加する態度、環境の尊重、リーダーシップの向上

と、整理することができます。

3. E S Dの視点について

	対 象	要素について	作用について	性質について
実態概念	自然環境・社会環境	多様性	相互性	循環性
規範概念	人や集団の行動や意思決定	公平性	連携性	責任性

◇地域の自然環境や社会環境を観察し、そこに多様性が乏しかったり、互いの関わりが少なかったり、循環していなかったりしたとき、そこから課題を見いだすことができます。

◇人や集団のやっていることや意思決定について考察し、それが時間的にまた空間的に公平でなかったら、また色々なものの連携を断ち切ろうとしていたり、無責任であったりしたとき、そこに課題を見いだすことができます。

◇このE S Dの視点に基づいて教材開発を始めておいてください。

4. 論点整理と次期学習指導要領について

(1) 次期学習指導要領のポイント①：◇社会に開かれた教育課程

これまでの反省

各教科等の教えるべき内容に注力した指導の実施

- それが子どもの中でどのように結び付けられるかについては無関心
- 教科等横断的指導の重要性の指摘（総合）
- 横断的指導であることが目的化
- それがどのように社会と関わるかは不言

①社会の変化に向き合い、適切に対応していくための資質能力を意識して育成すべき

◇この学習で「何ができるようになるのか」：社会との関わる上での資質能力の整理

②各教科の知識の内容だけでなく、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかを視野に教育課程を考えるべき

◇「何を学ぶのか」：指導内容を検討：汎用性のある知識を獲得するために必要な「深い学習」

◇「どのように学ぶのか」：深い学習のプロセス・対話・協働的学習・振り返り（メタ認知）

(2) 次期学習指導要領のポイント②：◇資質能力の三つの柱

①知識・技能「何を知っているか、何ができるか」

基礎的基本的な知識・技能だけでなく、それらを組み合わせた汎用性のある知識・技能の習得

②思考力・判断力・表現力等「知っていること・できることをどう使うか」

協働的問題解決のために必要な思考力・判断力・表現力等

必要な情報の収集・選択・分析に必要な判断・意志決定

伝える相手や状況に応じた表現力

③主体的に学習に取り組む態度

学びに向かう力や自己の感情や行動を統制する能力（メタ認知）

多様性を尊重する態度、協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップ等

(3) 学習評価の在り方について・資質能力の3つの柱に沿って3観点に整理

- ・感性や思いやり等は評価の対象外
- ・主体的な学びの過程の実現に向かっているかどうかを評価する
- ・評価できるような場面の設定
- ・パフォーマンス評価等多面的評価の必要性
- ・子ども自身が把握できるような評価：前の学びからより深い学びに向かっていることを自己評価
- ・子どもが主体的に学習に取り組む場面の可視化：アクティブ・ラーニング
- ・深い学びへの傾向を評価するべき
- ・目標に準拠した指導における形成的評価が重要

